

## 令和2年度 学校経営計画

### 1 学校教育目標

- 人間尊重の精神に基づき、校訓「研学・実践・誠実」のもと真理を追究し、社会の変化に主体的に対応できる生きる力と自己教育力を培う。
- 創造力と実践力に富み、誠実で豊かな心を持って、たくましく生きる人間の育成を目指す。

### 2 学校の特徴

本校は定時制単位制単独高等学校として、高岡駅前ウイング・ウイング高岡のビル内にあり、富山県民生涯学習カレッジ高岡地区センターを併設した生涯学習機能を合わせもつ学校である。

設置学科は昼間制Ⅰ部に普通科、情報ビジネス科、Ⅱ部に情報ビジネス科、生活文化科、夜間制に普通科、国際教養科を有する。入学、卒業をはじめ、単位の認定は前期、後期の2期に分けて実施し、「働きながら学ぶ」「自ら計画したペースで学ぶ」など、時代の変化や個々のライフスタイルに柔軟に対応するようカリキュラムを編成している。通信科目、通級による指導、高卒程度認定試験、ボランティア活動、技能審査の成果なども単位として認定し、生徒の多様な学びを尊重している。少人数制による個々へのきめ細かな指導も特徴の一つである。また、高校生と社会人がともに学ぶ「共学講座」の実施では、世代を越えた学び合いにより、先進的で効果的な教育を創出している。

### 3 学校の現状と課題

本校には不登校経験を持つ生徒、障害や困難を抱える生徒、外国につながる生徒など多様な生徒が学んでおり、経歴や価値観、学ぶ意欲にも違いが見られる。生徒一人ひとりの夢を実現させるべき学びの場として、学校全体のユニバーサルデザイン化、インクルーシブ教育のさらなる充実をはじめ、大学進学を目指す生徒への対応等、個に応じたキャリア教育を実践することが求められており、新学習指導要領の実施に向けた教育課程の工夫、学校組織の活性化、外部機関との有機的連携等を一層推進する必要がある。

- (1) 個々のレベルに応じ、学びに向かう力を養い、知識及び技能の習得を図り、思考力・判断力・表現力を育むために、校内外の研修によるスキルアップ、アクティブ・ラーニング型授業やICTを活用した授業の充実に努める。専門学科では学習に充実感を持たせる手段として、各種検定の合格率を高めるよう指導する。
- (2) 多様化する生徒の悩みや困りごとに対しては、SC・SSWによる教育相談の充実、児童相談所・警察など専門機関との連携、学校をあげた組織的な支援を的確に行う。必要に応じて個別の指導計画を作成し、職員間の共通理解を深め、学習指導や生徒指導に活用する。
- (3) 望ましい勤労観・職業観を養うため、入学当初から年次に応じてガイダンス等のキャリア教育や個別指導を組織的に行う。また、ポートフォリオを充実させ、生徒の進路に対する意識や意欲を高める。

(様式2)

#### 4 学校教育計画

項目	目標・方針及び計画	
学習活動 <b>重点1</b> (教務部)	目標	・ <u>単位修得率の向上(学習習慣の確立と基礎学力の定着を図る)</u> ・ <u>生徒の学習実態の把握</u>
	計画	・『学習・生活の手引き』の「毎日の授業の記録」の活用を図り、授業に参加することの意義を認識させる。 ・面接週間の充実を通して、生徒一人ひとりの学習歴、学力、興味・関心などを把握し、学習指導を推進する。また、履修指導を通して、生徒の授業に対する意欲を引き出し、主体的な学びを促し、出席率、単位修得率の向上につなげる。 ・生徒に意欲を持たせる授業が展開できるよう、生徒の実態をより正確に把握するとともに、互見授業などを通して授業改善に取り組む。 ・生徒自身にも自らの学習時間・態度を見つめ直す機会として、「学習時間調査」を実施し、結果をフィードバックする。
学校生活 <b>重点2</b> (生徒指導部)	目標	・健康で安全な生活を送るため、 <u>基本的な生活習慣の確立</u> と心身の調和的発達を図る。 ・社会的責任や役割を自覚して行動ができるよう、 <u>協調性・自己管理能力を育成</u> する。
	計画	・挨拶の励行と自らの行動や態度に責任を持たせる指導に取り組み、家庭や地域との連携を密にしながら、安全なネット利用や <u>基本的な生活習慣の定着</u> を目指す。 ・志貴野高校ネット安全ルールの見直しを図る。
学校生活 <b>重点2</b> (保健・教育相談部)	目標	・学校環境を整え、衛生意識、美化意識を高めることで、心の育成を目指す。 ・生徒に心身の健全な生活を送る必要性を認識させると共に、心身に不調を抱える生徒に対して、教員間で共通理解を図り、支援を行う。 ・生徒が安心して学校生活を送れるよう、人的・物的環境を整える。
	計画	・保健行事や保健教育を通して、心身の健康に理解と関心を深める。 ・困難を抱える生徒に対して迅速な対応をするために密に情報交換を行い、必要に応じて検討会を開催する。また、教職員、生徒等対象の研修会を開催する。 ・毎月1回美化の日を設定し、重点項目を決め、一斉清掃を実施する。 ・授業等のユニバーサルデザインへの取組みの継続、「個別的教育支援計画」「個別の指導計画」の活用を推進する。
進路支援 <b>重点3</b> (進路指導部)	目標	・生徒が社会的、職業的に自立することができるように、 <u>学校全体でキャリア教育の充実</u> に取り組む。 ・「自己の在り方、生き方や働き方」を考えさせて、自己実現の達成に向けて <u>主体的に進路選択ができる</u> ように指導する。
	計画	・1年次より目標を設定させ、生徒のキャリア発達にあわせた学習に取り組むことができるように指導する。特に日々の行動を記録させ、蓄積することで振り返りができるようにする。 ・保護者会やPTA総会における意見交換等で、保護者と学校との共通理解を深める。 ・ハローワーク・各企業・JST(CA)間のネットワークを活用して、就労支援が円滑に行えるようにする。 ・職場見学会・就業体験・学校見学会・オープンキャンパスへの参加を促し、進路選択のミスマッチをなくす。 ・生徒のキャリア発達にあわせた学習に取り組ませ、学力の向上や基礎力の定着を図るための補習や個別指導を充実させる。 ・「キャリア」に関する授業、「卒業生と語る会」等を充実させて進路意識の高揚に努める。
特別活動 <b>重点4</b> (特活部)	目標	・学校行事、生徒会活動、ホームルーム活動、そして部活動を通して心身の調和のとれた発達と個性の伸長を図り、よりよい社会を築こうとする自主的、自立的な態度を育て、明るく健全な学校づくりを目指す。 ・ボランティア活動を通して地域社会との連携を深め、社会参加・社会貢献への意欲と関心を高める。
	計画	・ <u>学校行事、ホームルーム活動の活性化</u> を図り、生徒が <u>主体的・意欲的に参加</u> できるよう工夫する。 ・自主的に活動する能力、態度の育成を図るため、行事の運営を工夫し、生徒の満足度の向上を目指す。 ・部活動を通して、充実感・達成感を体験させるとともに、年次の枠を超えた良好な人間関係の育成を目指す。 ・保育園や障がい者施設への訪問、七夕祭りや高岡なべ祭りなど地域行事へのボランティア活動を通して、自己肯定感の獲得と社会参画意識の向上に努める。

特別活動	目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒図書委員会の自主的な活動を推進するため、生徒主体の研修を実施する。</li> <li>学科、教科との連携、学習や研修に役立つ資料の充実を図る。</li> </ul>
	計画	<ul style="list-style-type: none"> <li><b>生徒図書委員の育成と生徒の自主的な図書館活動の推進</b>を図る。</li> <li>市の図書館と連携し、読み聞かせボランティアを実施する。</li> <li>生徒の自主的学習や教職員の研修のための図書館資料の整備と充実を図る。</li> </ul>
検定取得 <b>重点4</b> (図書部)	目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>ビジネスに関する専門的な知識と技術を習得して、その意義や役割についての理解を深め、ビジネス社会の発展に対応できる創造的な能力と実践的な態度を育てる。</li> <li>体験的な学習を通して、ビジネスの諸活動を主体的・合理的に行う実践力と望ましい職業観・倫理観を養い、人間性豊かで社会の変化に適應できる人材を育成する。</li> </ul>
	計画	<ul style="list-style-type: none"> <li>情報やビジネスに関する科目の基礎的・基本的な知識と技術の習得の徹底を図る。そのために生徒の実態に応じた授業内容の創意工夫を図り、生徒の教科に対する興味・関心と学習能力を高める。</li> <li><b>自主的、自発的な学習態度の育成に努め、各種検定試験に積極的に取り組み</b>、合格を目指す。</li> <li>体験的な学習の機会を多く提供し、ビジネスの場面での実践的な対応力と多様なビジネス社会への適應力を育てる。</li> <li>授業で学んだビジネスの知識や技術を、現実の社会や環境の変化に対応できる能力を育成したり、各自の進路選択やキャリアアップに活かしたりできるよう、キャリア教育を充実する。</li> </ul>
検定取得 <b>重点5</b> (生活文化科)	目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>生活産業における将来のスペシャリストとして必要な知識と技術を身につけさせる。</li> </ul>
	計画	<ul style="list-style-type: none"> <li>家庭科の各科目において、<b>体験的・実践的学習</b>を通して、基礎的・基本的な知識と技術を習得させる。</li> <li>生徒の実態に即した授業内容により、学習意欲を高め、<b>自発的・創造的に学習</b>する態度を育てるとともに課題解決能力や社会への適應力を身につけさせる。</li> <li><b>各種検定試験への合格</b>を目指して意欲的に取り組ませる。</li> <li>家庭クラブ活動を主体的に企画・運営させ、積極的に参加させる。</li> </ul>
ICT (情報管理部)	目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>ICTを活用するための知識と技能を習得し、社会の情報化の進展に主体的に対応できる基本的な能力と態度を育てる。</li> <li>プライバシーや情報セキュリティに関する理解を深め、ネットワーク社会におけるモラルとマナーに対する責任を自覚し、情報化社会に参加する態度を育成する。</li> <li>ネットワークを利用して、学校の情報を積極的に発信する。</li> </ul>
	計画	<ul style="list-style-type: none"> <li>ICT機器の整備と更新を通じて充実と活用を図る。</li> <li>情報モラルの意識を高め、情報セキュリティの理解に役立つ研修等を企画し、情報スキルの向上を図る。</li> <li>情報設備や機器の適切な保守管理を行い、ネットワークの定期的な点検を実施して障害を防止し、安全なシステム運用を行う。</li> <li>システムやネットワークの障害発生時に迅速に対処して、トラブルを防止する。</li> <li>ホームページを活用し、学校の活動を外部に紹介する。</li> </ul>
PTA (総務部)	目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>創立60周年記念事業に向け、同窓会事業を中心に具体化を図る。</li> <li>PTA活動に対する保護者の関心を喚起し、保護者の参加数を増やす。</li> <li>生涯学習機関との連携を図る。</li> </ul>
	計画	<ul style="list-style-type: none"> <li>創立60周年記念事業式典に関する総括、同窓会との連絡、名簿の作成をする。</li> <li>保護者の関心にあわせた活動内容を設定し、総会やPTA活動への参加意欲を高める。</li> <li>保護者と学校の情報交換の場としてPTA通信「志高だより」を活用する。</li> <li>共学講座のスムーズな運営にあたる。</li> </ul>
進路支援 (普通科)	目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>各年次や進路指導部と連携し、卒業までを見通した進路指導を行い、進路希望を実現させる。</li> <li>基礎学力の定着を図るとともに社会への参加意欲を高めさせる。</li> </ul>
	計画	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒の実態に即した教材を精選し、基礎基本の指導を徹底する。</li> <li>学習と勤労の両立に適應できる学校生活を指導する。</li> <li>生徒の進路希望を実現するため、各年次に即した進路ガイダンスを行う。</li> <li>検定等に意欲的に挑戦させることで進路意識の高揚につなげる。</li> <li>学び直し科目を設定することで、基礎学力の定着を図る。</li> </ul>

学習活動 (国際教養科)	目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>世界の国々の伝統や習慣を理解し、尊重する態度を育てるとともに、コミュニケーション能力を高め、国際社会に必要な基礎的素養を培う。</li> </ul>
	計画	<ul style="list-style-type: none"> <li>国際化にふさわしい知識や教養を習得させるために、学校設定教科「国際」の授業内容や「教養講座」等の行事の充実を図る。</li> <li>環日本海諸国の言語を第二外国語と位置づけ、その学習を通して各国の文化に対する理解を深めさせるとともに、日本社会について考える態度を育成する。</li> <li>国際社会で活躍できるマナー・表現力・コミュニケーション能力の伸長を図る。</li> <li>資格取得等に意欲的にチャレンジさせる。</li> </ul>
学校生活 (1年次)	目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>多様な生徒の個性や適性を見出すとともに、自律・自立的な態度を育成させる。</li> <li>自己理解を深め、進路意識を育みながら学力の向上を図る。</li> </ul>
	計画	<ul style="list-style-type: none"> <li>面接や個別指導を通して生徒理解を深めるとともに、保護者、各分掌、関係機関との連携を密にして、生徒の実態把握に努める。</li> <li>身だしなみに気をつけ、高校生らしい品位の確立を図る。</li> <li>基本的な生活習慣確立のため、生徒の出欠状況を逐次把握することで欠課や遅刻等の防止を図る。</li> <li>基礎学力を身につけさせるとともに、進路意識を高める。</li> </ul>
学校生活 (2年次)	目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>中堅の年次としての自覚と責任を促し、自律・自立的な態度の育成と基本的な生活習慣及び学習習慣を養う。</li> <li>生徒の個性・適性を見出し、自己理解を深めさせるとともに、進路意識の向上を図る。</li> </ul>
	計画	<ul style="list-style-type: none"> <li>高校生らしい品位・身だしなみの確立のため、生徒指導部と連携し、定期的に頭髪服装指導を実施し、自覚を促す。</li> <li>生徒の出席状況・学習状況を把握し、個別面接を通して、基本的な生活習慣や学習習慣を確立させる。</li> <li>個別面接や家庭、関係機関との連携を通して、生徒理解を深め、個々の生徒に応じた指導を行い、生徒の自律・自立的態度を育成する。</li> <li>進路ガイダンスや進路見学等を利用して自己の適性や能力について理解を深めさせ、それに基づいて進路意識を高める。</li> </ul>
進路支援 (3・4年次)	目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>卒業年次としての自覚と責任を促し、自律的な態度の育成を図る。</li> <li>自己の進路目標に向かって努力し、実現する力を養う。</li> </ul>
	計画	<ul style="list-style-type: none"> <li>高校生らしい品位・身だしなみの確立のため、定期的に頭髪服装指導を実施し、卒業年次としての自覚と責任を促す。</li> <li>進路指導部と連携し、具体的な進路決定に向けて適切な進路情報を提供し、面接指導や補習指導などを通して一人ひとりに応じた細やかな指導を行う。</li> <li>個別面接等を通して生徒理解に努め、進路実現に向けて保護者との連携を密にする。</li> <li>会社見学や学校説明会に、自覚を持って自律的な態度で参加するように指導する。</li> </ul>
学校生活 (夜間制)	目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>個々の生徒に応じた指導を心がけ、学習に対する興味と意欲を高める。</li> <li>生徒の社会的・職業的自立へ向けて、「人間力」「社会人基礎力」「就職基礎能力」「分野や職種にかかわらず、社会的・職業的自立に向けて必要な基盤となる能力」を高めていく。</li> <li>自己理解を深め、自己管理能力を高める。</li> </ul>
	計画	<ul style="list-style-type: none"> <li>社会生活を送る上で必要な基礎的な学力を身に付けさせるために、授業だけでなく個別指導の充実を図り、生徒の進路実現を目指す。</li> <li>多様な他者の考えや立場を理解できるよう、相手の意見を聴き入れることなどを助言することとともに、自分の考えを正確に伝えることを促し、コミュニケーションの力を高め、人間関係形成の能力を向上させる。</li> <li>課題対応能力として、課題の発見・分析を促し、適切な計画を立てて課題を処理・解決できる力を高める。</li> <li>ガイダンスを実施し、自己理解についての知識を高める。</li> </ul>

## 5 今年度の重点課題（学校アクションプラン）

令和2年度 志貴野高校アクションプラン - 1 -			
重点項目	学習活動		
重点課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・単位修得率の向上（学習習慣の確立と基礎学力の定着を図る）</li> <li>・生徒の学習実態の把握</li> </ul>		
現状	<ul style="list-style-type: none"> <li>・安易に授業を休む生徒が見受けられる。</li> <li>・学習意欲が低調で、学習習慣が身につけていない生徒がみられる。</li> <li>・学力差があり、一斉授業が難しいことがある。</li> </ul>		
達成目標	<table border="1" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 50%; text-align: center;">①単位修得率 90%以上</td> <td style="width: 50%; text-align: center;">②「学習時間調査」の実施 2回（前期1回、後期1回）</td> </tr> </table>	①単位修得率 90%以上	②「学習時間調査」の実施 2回（前期1回、後期1回）
①単位修得率 90%以上	②「学習時間調査」の実施 2回（前期1回、後期1回）		
方策	<table border="1" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 50%;"> <ul style="list-style-type: none"> <li>・日々の「学習の記録」（出席記録、学習時間の記録、学習内容等の記録）を、生徒一人一人に記録させる。</li> <li>・生徒が自らの学習の記録を確認することによって、授業に参加することの意義を知る。</li> <li>・生徒が利用しやすい『受講ガイド』を作成し、履修指導に生かす。</li> <li>・生徒の学力、興味・関心などを把握し、授業に対する興味・関心を引き出す。そこから、生徒の主体的・対話的な学びを促し、出席率、単位修得率の向上につなげる。</li> <li>・生徒の実態を、より正確に把握するために面接や個別指導を充実する。</li> </ul> </td> <td style="width: 50%;"> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒自身に自らの学習時間・態度を見つめ直す機会として、「学習時間調査」を、年2回実施し、結果をフィードバックする。期末考査の期間を含めることで、考査に対する取り組みの振り返りを促す。</li> <li>・家庭での学習活動が充実するように、教材、授業などを工夫する。</li> </ul> </td> </tr> </table>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日々の「学習の記録」（出席記録、学習時間の記録、学習内容等の記録）を、生徒一人一人に記録させる。</li> <li>・生徒が自らの学習の記録を確認することによって、授業に参加することの意義を知る。</li> <li>・生徒が利用しやすい『受講ガイド』を作成し、履修指導に生かす。</li> <li>・生徒の学力、興味・関心などを把握し、授業に対する興味・関心を引き出す。そこから、生徒の主体的・対話的な学びを促し、出席率、単位修得率の向上につなげる。</li> <li>・生徒の実態を、より正確に把握するために面接や個別指導を充実する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒自身に自らの学習時間・態度を見つめ直す機会として、「学習時間調査」を、年2回実施し、結果をフィードバックする。期末考査の期間を含めることで、考査に対する取り組みの振り返りを促す。</li> <li>・家庭での学習活動が充実するように、教材、授業などを工夫する。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・日々の「学習の記録」（出席記録、学習時間の記録、学習内容等の記録）を、生徒一人一人に記録させる。</li> <li>・生徒が自らの学習の記録を確認することによって、授業に参加することの意義を知る。</li> <li>・生徒が利用しやすい『受講ガイド』を作成し、履修指導に生かす。</li> <li>・生徒の学力、興味・関心などを把握し、授業に対する興味・関心を引き出す。そこから、生徒の主体的・対話的な学びを促し、出席率、単位修得率の向上につなげる。</li> <li>・生徒の実態を、より正確に把握するために面接や個別指導を充実する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒自身に自らの学習時間・態度を見つめ直す機会として、「学習時間調査」を、年2回実施し、結果をフィードバックする。期末考査の期間を含めることで、考査に対する取り組みの振り返りを促す。</li> <li>・家庭での学習活動が充実するように、教材、授業などを工夫する。</li> </ul>		

令和2年度 志貴野高校アクションプラン - 2 -			
重点項目	学校生活		
重点課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・基本的生活習慣の確立及び自己管理能力の育成</li> <li>・支援を必要とする生徒のための校内体制の充実</li> </ul>		
現状	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ネットゲームやSNS、アルバイトなどにより、朝起きられない生徒がいる。また、SNSに関するトラブルが多くみられる。</li> <li>・あいさつ運動期間中は、自発的に挨拶をできる生徒が多いものの、年間を通して挨拶を交わし合える学校になるためには、あいさつ運動に工夫が必要である。</li> <li>・自分の健康状態を把握できず、適切な対応ができない生徒がみられる。</li> <li>・周囲と適切な人間関係を築けず、学校生活に支障をきたす生徒がみられる。</li> <li>・授業や行事などで「困り感」を持った生徒が多数いる。</li> <li>・高校における特別支援教育や発達障害等について教員が理解を深め、「授業のユニバーサルデザイン化」を一層推進する必要がある。</li> </ul>		
達成目標	<table border="1" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 50%;">                     ① 学校生活アンケート                      a あいさつ・遅刻 b SNSトラブル                      a 良好またはおおむね良好 70%以上                      b 減少                 </td> <td style="width: 50%;">                     ②教育育相談や特別支援教育に関する                      教員研修会・学習会の実施                      年6回以上                 </td> </tr> </table>	① 学校生活アンケート a あいさつ・遅刻 b SNSトラブル a 良好またはおおむね良好 70%以上 b 減少	②教育育相談や特別支援教育に関する 教員研修会・学習会の実施 年6回以上
① 学校生活アンケート a あいさつ・遅刻 b SNSトラブル a 良好またはおおむね良好 70%以上 b 減少	②教育育相談や特別支援教育に関する 教員研修会・学習会の実施 年6回以上		
方策	<table border="1" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 50%;"> <ul style="list-style-type: none"> <li>・毎月「行動・身だしなみ」の自己チェックを行い、前月と現在を比較し自己のあるべき姿について考えさせる。また遅刻欠席が多い生徒に対して生活習慣を見直させる。</li> <li>・生徒校風委員の主体的な「あいさつ運動」を通して、あいさつの習慣を身に着けさせる。</li> <li>・志貴野高校ネット安全ルールの見直しを行い、ネット安全教室を実施するなど、健全な利用について考えさせる。</li> </ul> </td> <td style="width: 50%;"> <ul style="list-style-type: none"> <li>・プロフィールカードや面談等で、生徒の特性や健康状態、配慮事項等を把握し、年次部会や職員会議で共通理解を図る。</li> <li>・特別支援教育（発達障害の生徒への対応・通級による指導・授業等のユニバーサルデザインなど）や本校生徒の実態に即した教育相談等に関する研修会・学習会を実施する。</li> <li>・「授業等のユニバーサルデザインに関するアンケート」を実施し、教員側の定着を図る。</li> </ul> </td> </tr> </table>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・毎月「行動・身だしなみ」の自己チェックを行い、前月と現在を比較し自己のあるべき姿について考えさせる。また遅刻欠席が多い生徒に対して生活習慣を見直させる。</li> <li>・生徒校風委員の主体的な「あいさつ運動」を通して、あいさつの習慣を身に着けさせる。</li> <li>・志貴野高校ネット安全ルールの見直しを行い、ネット安全教室を実施するなど、健全な利用について考えさせる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・プロフィールカードや面談等で、生徒の特性や健康状態、配慮事項等を把握し、年次部会や職員会議で共通理解を図る。</li> <li>・特別支援教育（発達障害の生徒への対応・通級による指導・授業等のユニバーサルデザインなど）や本校生徒の実態に即した教育相談等に関する研修会・学習会を実施する。</li> <li>・「授業等のユニバーサルデザインに関するアンケート」を実施し、教員側の定着を図る。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・毎月「行動・身だしなみ」の自己チェックを行い、前月と現在を比較し自己のあるべき姿について考えさせる。また遅刻欠席が多い生徒に対して生活習慣を見直させる。</li> <li>・生徒校風委員の主体的な「あいさつ運動」を通して、あいさつの習慣を身に着けさせる。</li> <li>・志貴野高校ネット安全ルールの見直しを行い、ネット安全教室を実施するなど、健全な利用について考えさせる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・プロフィールカードや面談等で、生徒の特性や健康状態、配慮事項等を把握し、年次部会や職員会議で共通理解を図る。</li> <li>・特別支援教育（発達障害の生徒への対応・通級による指導・授業等のユニバーサルデザインなど）や本校生徒の実態に即した教育相談等に関する研修会・学習会を実施する。</li> <li>・「授業等のユニバーサルデザインに関するアンケート」を実施し、教員側の定着を図る。</li> </ul>		

令和2年度 志貴野高校アクションプラン - 3 -

重点項目	進路支援	
重点課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・進路実現に向けて学校全体で支援する体制づくり</li> <li>・年次の状況に応じた進路支援と主体的な進路選択の促進</li> </ul>	
現状	<ul style="list-style-type: none"> <li>・進学・就職ともに地元志向が強く、県内及び隣接県への希望者がほとんどである。</li> <li>・各年次における生徒状況が異なるため、それぞれに応じた指導が必要である。</li> <li>・進学か就職かを決められずにアルバイト継続を選択するなど進路未定者がいる。</li> <li>・進路選択でミスマッチになる生徒がいる。</li> </ul>	
達成目標	①希望する進路の内定率の向上	②計画的・継続的な進路指導の実施
	進路決定率 90%以上	各年次の進路ガイダンス年3回実施
方策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・面接指導や保護者会等をとおして生徒や保護者に的確なアドバイスを行い、進路選択のミスマッチをなくす。</li> <li>・新制度入試や新カリキュラムに即した進路指導が、学校全体でできる体制をつくる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・進路ガイダンス、進路見学会、適性検査、進路講話等を計画的に行うことで、主体的に進路を選択する力を育成するとともに、進路意識の高揚をはかる。</li> <li>・ポートフォリオで、日々の行動を記録する習慣をつけさせ、自己の目標に対する振り返りをさせながらキャリア形成をはかる。</li> <li>・基礎学力向上講座、一般常識コンクール、面接指導等を計画的に実施することで、学力の向上や定着に努める。</li> </ul>

令和2年度 志貴野高校アクションプラン - 4 -

重点項目	特別活動	
重点課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校行事、ホームルーム活動等における生徒の積極的な参加の促進</li> <li>・図書委員会活動の活性化と読書習慣の確立</li> </ul>	
現状	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒会活動や学校行事の参加に消極的な生徒がみられる。また募金活動、ボランティア活動、保育園や障がい者施設での交流などに参加する生徒数が減少傾向にある。</li> <li>・図書委員会では中央図書館での読み聞かせボランティア、文化祭での展示、図書館だよりの編集を行っているが、参加者が特定の生徒に偏っている。また図書館を利用する生徒も限られ、読書習慣が確立しているとは言えない。</li> </ul>	
達成目標	特別活動に参加した生徒の出席率と満足率	生徒在籍数に対する総貸出冊数の割合
	90%以上	70%以上
方策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒会を中心に、生徒の意見や要望を行事に積極的に取り入れ、参加意識を高める。</li> <li>・事後アンケートを実施し、生徒の満足度や問題点を把握する。</li> <li>・満足度の低かった生徒の声に耳を傾け、より多くの生徒が充実感を得ることができるよう工夫する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・図書委員ミーティングを月1回開催し、生徒主体の研修を実施する。</li> <li>・リクエスト帳を活用し、図書委員を中心に読書意欲を喚起する。</li> <li>・図書だよりの内容を充実させ、来館者の増加や読書意欲の喚起に努める。</li> <li>・HRの時間等を利用して読書指導を行い、図書室の利用を図る。</li> </ul>

重点項目	検定取得	
重点課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「情報ビジネス科」：専門教科の学習指導の充実と学力の定着を図るため、各種検定試験に対して効果的な対策を行い、受検率と合格率の向上を目指す。</li> <li>・「生活文化科」：主体的に学習に取り組む態度を育成するため、被服、食物、保育、情報の各分野において、各種検定試験に取り組み、合格を目指す。</li> </ul>	
現状	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各生徒の事情により、文章の読解力や計算能力など、基礎力が不足している生徒がみられる。</li> <li>・簿記や情報処理など、論理的思考力や計数能力が必要な専門科目において、内容の理解がおそい生徒がみられる。</li> <li>・社会生活への関心や問題意識が低い生徒がみられる。</li> <li>・生活体験が少ないため、生活に必要な知識や技術が身につけていない生徒がみられる。</li> </ul>	
達成目標	「情報ビジネス科」における各種検定	「生活文化科」における各種検定
	受検者の合格率70%以上	受検者の合格率90%以上
方策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒個々の理解に応じた指導や教材の活用を通じて、基本的な学習内容を確実に定着させ、更に発展的な学習内容への関心と意欲を高める。</li> <li>・関連する授業の充実に努め、学習効果の高い教材を活用して受検対策を行い、検定合格を目指す。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各科目における体験的・実践的学習により、基礎的・基本的な知識と技術を習得させる。</li> <li>・各種検定の合格に向けて、自主教材や過去問題等の事前学習に取り組ませる。</li> </ul>